



日本高等教育学会第 18 回大会 プログラム

2015 年 6 月 27 日（土）～28 日（日）

早稲田大学（早稲田キャンパス）

共催：



早稲田大学 教育・総合科学学術院

早稲田大学 大学総合研究センター

大学は社会の希望か 大学改革の実態からその先を読む
江原武一著 四六・上製・二〇八頁・二〇〇〇円
今日の改革最大の問題は大学自らの主体的改革の欠如だ。

東京帝国大学の真実 日本近代大学形成の検証と洞察
昭著 A5・上製・三〇〇頁・四六〇〇円
精細な歴史検証から浮かび上がる日本近代大学通有の欠陥

転換期日本の大学改革 アメリカとの比較
江原武一著 A5・上製・三三八頁・三二〇〇円

原理原則を踏まえた大学改革を 場当たり策からの脱却こそグローバル化の条件
昭著 四六・上製・二二四頁・二〇〇〇円

「再」取得学歴を問う 専門職大学院の教育と学習
吉田文編著 A5・上製・二四八頁・二八〇〇円

航行を始めた専門職大学院
吉田文・橋本鉦市共著 A5・上製・一九二頁・二六〇〇円

ポストドクター 若手研究者養成の現状と課題
北野秋男著 A5・上製・三二八頁・三六〇〇円
折角の意欲ある若手研究者を活用できぬ現状改善のために。

高等教育における視学委員制度の研究 認証評価制度のルーツを探る
林透著 A5・上製・二二六頁・三八〇〇円

大学再生への具体像 大学とは何か(第二版)
潮木守一著 四六・並製・三三六頁・二四〇〇円

(4月刊) **大学理念の再検討と大学改革の展望**
金子勉著 精密な歴史的検証に裏打ちされた著者の遺著。

戦後日本の教育構造と力学 「教育」トライアングル神話の悲慘
河野眞博著 A5・上製・二七二頁・三四〇〇円
曖昧・矮小化・主体性欠如―戦後教育改革の不徹底を斬る。

アクティブラーニングと再版出来!
教授学習パラダイムの転換
溝上慎一著 A5・並製・二〇八頁・二四〇〇円
アクティブラーニングとは何か―理論的追究から実践へ。

学びの質を保証するアクティブラーニング
3年間の全国大学調査から
河合塾編著 A5・並製・二〇〇頁・二〇〇〇円

大学教育改革と授業研究 大学教育実践の現場から
須藤敏昭著 A5・並製・二六八頁・二八〇〇円

「主体的学び」につなげる評価と学習方法
カナダで実践される「CEMモデル」
S.F.ヤング/R.J.ウィルソン著 土持ケイリ法一監訳 A5・並製・二二八頁・二〇〇〇円
今や全国的注目の「主体的学び」への具体的提案・事例集

〈主体的学び研究所編 各A5・並製〉
主体的学び創刊号 (特集) 教育から学びへ、ICT活用へ 一七六頁・一八〇〇円

(4月刊) (好評発売中)
主体的学び第2号 (特集) 反転授業がすべてを解決するののか 一六〇頁・一六〇〇円

主体的学び第3号 (特集) アクティブラーニングとポートフォリオ

大学生の学習ダイナミクス 授業内外のラーニング・ブリッジング
河井亨著 A5・上製・三二二頁・四五〇〇円

視写の教育 さらさら読み書きさせる「大学の授業実践3」
池田久美子著 A5・並製・二四〇頁・二四〇〇円

ストーリー中心型カリキュラムの理論と実践 オンライン大学院の挑戦とその舞台裏
根本淳子・鈴木克明編著 A5・並製・二五六頁・三四〇〇円
新たな実践能力向上カリキュラムへの絶好のガイドブック。

トランスナショナル高等教育の国際比較 留学概念の転換
杉本均編著 A5・上製・三二五頁・三六〇〇円
高等教育の「輸出入」・提携の世界的展開の全容とその問題点。

新自由主義大学改革 国際機関と編者代表 細井克彦 A5・上製・三八四頁・三八〇〇円

新興国家の世界水準大学戦略 世界水準をめざすアジア・中南米と日本
P.G.アルトバック/J.パラン編 米澤彰純監訳 A5・上製・四〇八頁・四八〇〇円
その驚異の活力と構想力―はたして日本は対抗できるか。

イギリスの大学 対位線の転位による質的転換
秦由美子著 A5・上製・四二四頁・五八〇〇円

(新版) **オーストラリア・ニュージーランドの教育** グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて
青木麻衣子・佐藤博志編著 A5・並製・二〇〇頁・二〇〇〇円

中国高等教育独学試験制度の展開
南部広孝著 A5・上製・二四八頁・三二〇〇円

韓国の才能教育制度―その構造と機能
石川裕之著 A5・上製・三六八頁・三八〇〇円

国際教育開発研究の射程 持続可能な社会へ向けた比較教育学の試み
北村友人著 A5・上製・二四〇頁・二八〇〇円
自他を包含した在るべき国際教育開発のための理論と実践。

発達障害支援の社会学 医療化と実践家の解釈
木村祐子著 A5・上製・二四〇頁・三六〇〇円
発達障害支援の医療化に伴う問題群の具体的改善に向けて。

発達障害支援の社会学 医療化と実践家の解釈
木村祐子著 A5・上製・二四〇頁・三六〇〇円
発達障害支援の医療化に伴う問題群の具体的改善に向けて。

ごあいさつ

2015年6月27日（土）・28日（日）の両日、早稲田大学早稲田キャンパスで日本高等教育学会第18回大会を開催することになりました。

大会に先立ちまして、会員の皆様から自由研究発表の申し込みを募りましたところ、おかげさまで87件の申し込みがございました。詳しくは本プログラムをご覧くださいと思いますが、発表テーマも多様であり当日の活発な討論が予想されます。

大会1日目の午後に予定されている課題研究では、「高等教育政策の変容」、「日本の大学院教育を考える（2）—英国・米国・中国との比較—」という2つの部会が開かれます。いずれも現代の高等教育において重要な課題であり、今後の高等教育研究に対して示唆に富む発表が行われます。どちらの部会におきましてもフロアから積極的に討議にご参加いただければ幸いです。

大会2日目の午後には公開シンポジウム「高等教育のグローバル化の批判的検討」を開きます。大学改革という流れの中で、定義が不明確ながら「グローバル人材」というタームが一人歩きしています。大学は、教育や研究という役割において、そもそもグローバルな活動を志向する場であることは確かですが、近年の各界の議論をみるときわめて単純化した議論が横行し、事態を反省的に捉え返していないように思われます。大学ができること・できないこと、すべきこと・すべきでないことは何かを再考することを目的として、今回のシンポジウムを企画しました。

また、大会2日目の夕方には、学会主催ワークショップ「日本型IRの多様性をどう見るか」を開きます。大学教育の質保証や大学経営を下支えするIR機能が、各大学でさまざまな形態で整備されつつありますが、どの組織も、同じような問題や課題に直面しているようです。昨年に引き続き、複数の大学の担当者とフロアの参加者とが、教職員ともに参加し、大学のIRをいかに機能させるかについて本音で語り合う機会となることが期待されます。

どうぞ皆様のお力添えで、第18回大会が、今後の高等教育について考えるための知的刺激を喚起する機会となりますこと、切に希望いたします。会員の皆様の多数のご参加を、心よりお待ちしております。

日本高等教育学会 第18回大会実行委員会
委員長 吉田 文

大会日程

6月26日 (金)

18:00～19:00 理事会 (26号館 302教室)

6月27日 (土)

9:15～ 受付 (16号館 2階ピロティ)
10:00～12:00 自由研究発表Ⅰ (16号館 6・7階)
12:00～12:50 課題研究Ⅰ 打ち合わせ (16号館 709教室)
12:00～12:50 課題研究Ⅱ 打ち合わせ (16号館 710教室)
12:00～12:50 編集委員会 打ち合わせ (16号館 610教室)
13:00～15:00 自由研究発表Ⅱ (16号館 6・7階)
15:20～17:50 課題研究
課題研究Ⅰ (3号館 401教室)
「高等教育政策の変容」
課題研究Ⅱ (3号館 402教室)
「日本の大学院教育を考える (2) —英国・米国・中国との比較—」
18:10～20:00 懇親会 (25号館生協食堂大隈ガーデンハウス)

6月28日 (日)

9:15～ 受付 (16号館 2階ピロティ)
10:00～12:00 自由研究発表Ⅲ (16号館 6・7階)
12:00～12:50 公開シンポジウム 打ち合わせ (16号館 709教室)
12:00～12:50 総会 打ち合わせ (16号館 710教室)
13:00～13:30 総会 (14号館 201教室)
13:40～16:40 公開シンポジウム (14号館 201教室)
16:50～18:20 学会主催・IR ワークショップ (14号館 201教室)

大会参加のご案内

- ウェブサイト 最新情報は <http://www.waseda.jp/assoc-jaher2015/> で提供しております。
- 参加費 大会参加費：5,000 円 （事前振込の方は4,500 円）
懇親会費：5,000 円 （事前振込の方は4,500 円）
*会員でない方も臨時会員として参加できます。参加費は正会員当日参加費と同額です。
**シンポジウムは無料で一般に公開します。
- 学会年会費 大会会場では、学会年会費の納入はできませんのでご了承ください。
- 入場 会場及び懇親会会場への入場は、必ずネームプレートをつけて下さい。原則としてネームプレートのない方は入場できません。なお、ネームプレートはお帰りの際に受付にお返しください。
- 呼び出し 会場での呼び出しは行いませんのでご了承ください。
- 欠席の場合 発表者が欠席する場合は、わかり次第、できるだけ早く大会実行委員会に E-mail にてお知らせください（大会実行委員会 E-mail : jaher2015@list.waseda.jp）。
- 資料のコピー 大会準備委員会によるコピーサービスはおこないません。自由研究発表用の配付資料等は各自が必要な部数をご用意ください。
- 託児施設 事前予約により学内 99 号館の施設が使用可能です。大会ウェブサイトの「託児施設」ページをご確認ください。
- 会員控室 16 号館 6 階 609 教室が会員控室となります。
- 書籍の展示 16 号館 6 階 612 教室で書籍の展示をおこないます。
- クローク 27 日（土）は 18:00 まで、28 日（日）は 13:00 まで、16 号館 6 階 605 教室で荷物をお預かりいたします。貴重品はご自身で管理するようお願いいたします。
- 昼食 土曜日は、生協食堂をはじめ、早稲田駅周辺およびキャンパス近隣のお店が営業しています。日曜日は、営業しているお店をランチ・マップで紹介いたします。
- 懇親会 27 日（土）18:10 より、大隈庭園脇の 25 号館 2 階生協食堂（大隈ガーデンハウス）にておこないます。是非ご出席ください。
- 喫煙場所 校舎内は禁煙となっています。16 号館と 15 号館との間に喫煙スペースがあります。

発表者へのお願い

- 発表および質疑応答時間

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

※全ての発表について、以下の要領で時間の目安をお知らせします。

- 【1 鈴】発表終了 5 分前
- 【2 鈴】発表終了時
- 【3 鈴】質疑応答終了時

- 発表用機械器具

大会会場には、プロジェクターおよびパソコン（Windows 7）を用意します。当方で準備するパソコンを利用される場合は、Windows MS Office（.ppt/.pptx、.doc/.docx 等）及び PDF ファイル（.pdf）は基本的に対応可能です。発表ファイルを入れた USB メモリ等をご用意ください。ご自身のパソコンを利用希望の場合には必要な機器（Apple 製端末の場合はコネクタ）を持参の上、発表部会開始前に動作確認をお願いいたします。

司会者へのお願い

- 発表および質疑応答時間

予定時間を超過しないように時間管理をお願いいたします。

- 総括討論

各セッションの最後に総括討論の時間を設けておりますが、利用できる時間はそれぞれの部会によって異なります。この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願いいたします。

- 緊急連絡先

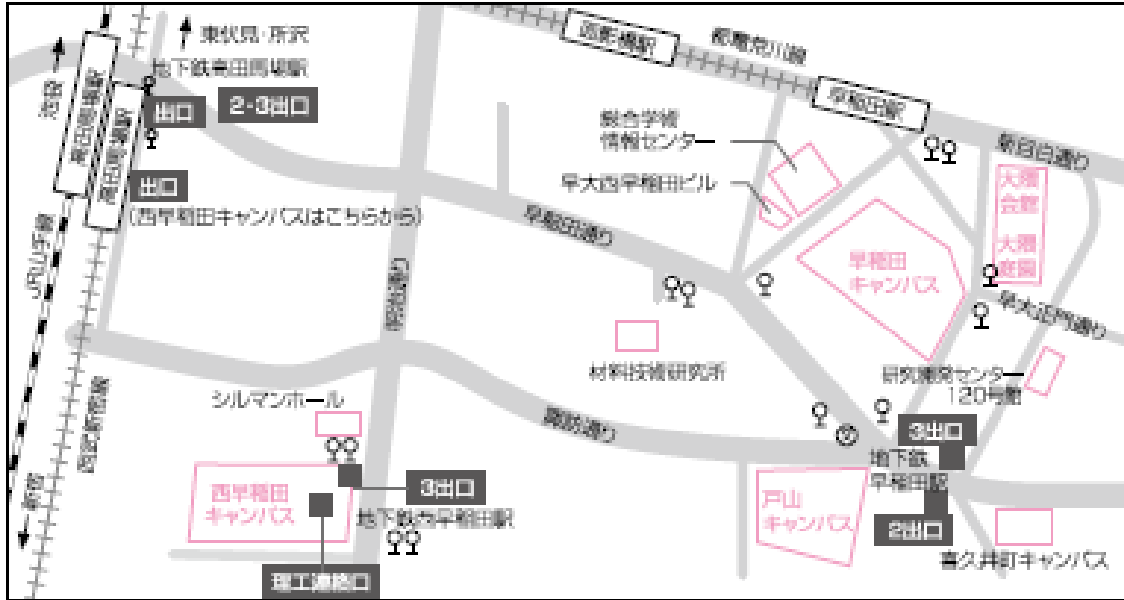
発表者、司会者ともに、当日に緊急の連絡をしなければならない場合には、以下の番号をご使用ください。26 日（金）18:00 以前の連絡は jaher2015@list.waseda.jp へお願いいたします。

大会事務局：090-2401-8750（6 月 26 日（金）18:00～6 月 28 日（日）13:00 まで連絡可）

会場へのアクセス

早稲田大学早稲田キャンパスへのアクセスは、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>



● 主なアクセス

- ① 高田馬場駅（新宿・池袋駅から JR 山手線で各 2 駅、ないし西武新宿線）からお越しの場合
 - ・ 都営バス（学 02）早大正門前行きに乗車し、2 つ目の「西早稲田」下車、徒歩約 3 分（西門あるいは北門経由）。その他、小滝橋車庫を発着する一部の都営バスも利用可能です。
 - ・ 地下鉄東京メトロ東西線西船橋方面に乗車し、1 つ目の早稲田駅下車、徒歩約 8 分（正門経由）。
- ② 池袋・大塚・王子駅方面からお越しの場合（JR 山手線以外の方法）
 - ・ 都電荒川線 早稲田行きに乗車し、終点早稲田駅下車、徒歩約 6 分（北門・正門経由）。
- ③ 東京駅・羽田空港からお越しの場合（東西線大手町駅経由の場合）
 - ・ 地下鉄東京メトロ東西線中野・三鷹方面に乗車し、早稲田駅下車、徒歩約 8 分（正門経由）。

大会会場の地図

● 大会会場全体図



発表会場 各館内レイアウト

16号館【受付・自由研究発表・本部】

● 16号館6階・7階【自由研究発表】

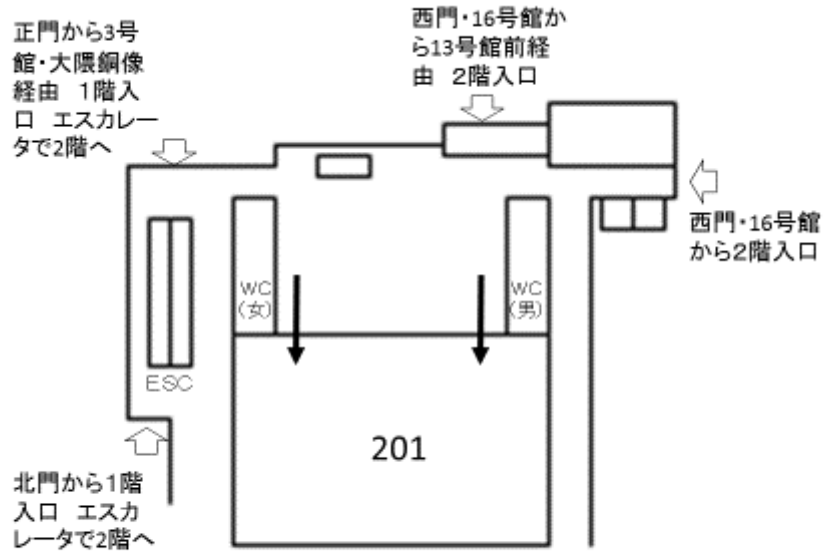


● 16号館までのルート

- ・ 西門・第二西門から入ると左手の建物が16号館（2階事務所前）になります。その前の広場で受付を行っています。
- ・ 北門から入り、15号館・14号館の間を通ると16号館1階に到着します（約2分）。受付は2階となります。
- ・ 正門から入り、大隈銅像を過ぎて右折し、11号館と14号館の間の階段を上って16号館2階前の広場（受付）に到着します（約4分）。
- ・ 16号館1階・2階（階段脇の扉を入る）からエレベータで6階・7階に到着します。お帰りの際は階段もご利用ください。

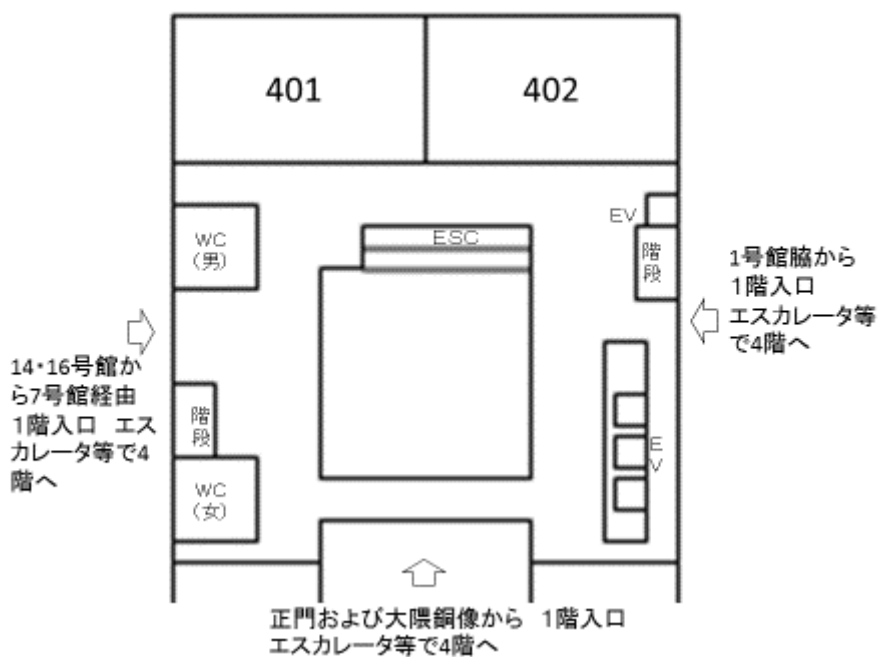
14号館【総会・シンポジウム・ワークショップ】

- 14号館 2階 201教室【総会・シンポジウム・ワークショップ】



3号館【課題研究】

- 3号館 4階 401・402教室【課題研究】



大会会場一覧

6月27日(土)

受付：9:15～

16号館2階ピロティ

自由研究発表Ⅰ：10:00～12:00

16-607	I-1部会	不適応学生
16-608	I-2部会	学習成果
16-701	I-3部会	教育課程
16-702	I-4部会	教員
16-705	I-5部会	大学政策
16-706	I-6部会	大学の経営体制
16-708	I-7部会	大学の経営課題

自由研究発表Ⅱ：13:00～15:00

16-607	Ⅱ-1部会	学生と社会
16-608	Ⅱ-2部会	教育実践の研究
16-701	Ⅱ-3部会	教育の質保証
16-702	Ⅱ-4部会	大学職員
16-705	Ⅱ-5部会	大学院と研究
16-706	Ⅱ-6部会	奨学金と大学財政
16-708	Ⅱ-7部会	大学の活性化方策

課題研究：15:20～17:50

3-401	課題研究Ⅰ
	高等教育政策の変容
3-402	課題研究Ⅱ
	日本の大学院教育を考える(2)
	—英国・米国・中国との比較—

懇親会：18:10～20:00

25号館生協食堂 大隈ガーデンハウス

6月28日(日)

受付：9:15～

16号館2階ピロティ

自由研究発表Ⅲ：10:00～12:00

16-607	Ⅲ-1部会	留学と人材育成
16-608	Ⅲ-2部会	学士課程教育
16-701	Ⅲ-3部会	大学評価
16-702	Ⅲ-4部会	大学教授職
16-705	Ⅲ-5部会	諸外国の高等教育政策
16-706	Ⅲ-6部会	大学とガバナンス
16-708	Ⅲ-7部会	学生参画

総会：13:00～13:30

14号館201教室

公開シンポジウム：13:40～16:40

14号館201教室

学会主催ワークショップ：16:50～18:20

14号館201教室

I-1 部会 16-607

不適合学生

司会： 濱名 篤 (関西国際大学)

- 10:00~10:20 **成績不振・不適合学生に対する積極的な修学支援**
—全体から個へ、学生支援への発想の転換—
○中村 章二 (愛知教育大学)
- 10:20~10:40 **高等教育中退者の学校経験と中退までの経緯**
—ハローワークを通じた中退者調査をもとに—
○喜始 照宣 (東京大学大学院)
- 10:40~11:00 **時系列データからみた大学中退**
○朴澤 泰男 (国立教育政策研究所)
- ~~11:00~11:40~~ **米国における親学歴・職業と学修行動のレリバンス**
11:00~11:20 —ポスト「第一世代論」の構築に向けて—
○山田 礼子 (同志社大学) ○~~木村 拓也 (九州大学)~~
- 11:40~12:00 **総括討論**
11:20~12:00
-

I-2 部会 16-608

学習成果

司会： 大森 不二雄 (首都大学東京)

- 10:00~10:20 **テキスト分析による汎用的・客観的学修成果一覧作成 (第一段階)**
—デンマーク、英国、チューニングの比較—
○堀井 祐介 (金沢大学)
- 10:20~10:40 **学生の経年的な成績獲得類型の析出と規定要因の検討**
—医学領域における分野別 IR からのアプローチ—
○岡田 聡志 (千葉大学)
- 10:40~11:20 **SERU による学生の経験に着目した学習成果に影響を与える要因の検討**
—2 回の Student Experience Survey in Research University の結果から—
○齊藤 貴浩 (大阪大学) ○安部 (小貫) 有紀子 (大阪大学)
和嶋 雄一郎 (非会員：大阪大学) 廣森 聡仁 (非会員：大阪大学)
宮錦 三樹 (非会員：立教大学) 藤井 翔太 (非会員：大阪大学)
前原 忠信 (非会員：大阪大学)
- 11:20~11:40 **大学教育の実証研究**
—到達点と課題—
○金子 元久 (筑波大学)
- 11:40~12:00 **総括討論**
-

I-3 部会 16-701

教育課程

司会： 橋本 鉦市 (東京大学)

- 10:00~10:20 高等教育論における「日本の高等教育の環境教育」研究の系譜
—環境政策における環境人材育成へのインパクト—
○内山 弘美 (大学非常勤講師)
- 10:20~10:40 韓国の短期職業高等教育機関における学士課程に関する検討
—4年制大学との関係を中心に—
○松本 麻人 (文部科学省)
- 10:40~11:00 高等教育における「保育者」養成課程カリキュラムの形成に関する考察
○大佐古 紀雄 (育英短期大学)
- 11:00~11:20 英国における高等教育学(大学教授学)課程開発
—専門職業教育と学術教育を融合するプロフェッショナル教育—
○加藤 かおり (新潟大学)
- 11:20~12:00 総括討論
-

I-4 部会 16-702

教員

司会： 伊藤 彰浩 (名古屋大学)

- 10:00~10:20 ドイツにおける大学教育の改善策と研究の奨励
○津田 純子 (新潟大学)
- 10:20~10:40 現職教員へのアンケート：「教員養成系大学院に希望すること」の調査結果と教員養成系大学院の進むべき方向性
○胸組 虎胤 (鳴門教育大学)
- 10:40~11:00 初年次セミナー担当教員の意識変化に関するシラバステキスト分析
○中島 英博 (名古屋大学)
- 11:00~11:20 女子高等教育における黒田チカ
—最初の女子大生の教育・研究—
○黒田 光太郎 (九州産業大学)
- 11:20~12:00 総括討論
-

I-5 部会 16-705

大学政策

司会： 早田 幸政（中央大学）

- 10:00~10:20 国立大学における獣医学教育の統合・再編運動
○吉永 契一郎（東京農工大学）
- 10:20~10:40 学校教員の計画養成は可能か
○山崎 博敏（広島大学）
- 10:40~11:00 大学教育改革を支援する政策のインパクトと実質的効果
—文部科学省「地（知）の拠点事業（COC事業）」に見る政策意図と大学におけるその受容—
○出口 英樹（鹿児島大学）
- 11:00~11:20 地方大学活性化へ向けての現状と問題解決策を考える
○伊東 陽子（文部科学省）
- 11:20~12:00 総括討論
-

I-6 部会 16-706

大学の経営体制

司会： 山本 眞一（桜美林大学）

- 10:00~10:20 学部設置における意思決定プロセスに関する考察
—学内の政策調整の実態に着目した事例研究から—
○塩田 邦成（学校法人立命館）
- 10:20~10:40 米国の大学における教学担当副学長、学部長の意思決定と IR データの活用に関する考察
—3大学でのインタビュー調査を通じて—
○浅野 茂（山形大学）
本田 寛輔（非会員：University of Maine at Augusta）
寫田 敏行（茨城大学）
- 10:40~11:30 大学の経営管理職と学術管理職の相互作用に関する国際比較研究
—日米の調査結果から—
○山本 清（東京大学）
○丸山 文裕（広島大学）
○王 帥（東京大学大学院）
○川嶋 太津夫（大阪大学）
○白鳥 義彦（神戸大学）
- 11:30~12:00 総括討論
-

I-7部会 16-708

大学の経営課題

司会： 夏目 達也 (名古屋大学)

- 10:00~10:20 **学長式辞から読む大学史**
○廣内 大輔 (岐阜大学) 原田 健太郎 (関西大学)
丸山 剛史 (非会員：宇都宮大学)
- 10:20~10:40 **大学経営研究のパーспекティブに関する一考察**
—分析枠組みとしてのダブル・バインド理論の有効性を中心に—
○平塚 力 (京都文教大学)
- 10:40~11:00 **高等教育政策と大学図書館**
—大学図書館近代化政策と大学図書館ガバナンス—
○村上 孝弘 (龍谷大学)
- 11:00~11:40 **ラーニング・コモンズの新たな展開**
—カナダの事例から—
○溝上 智恵子 (筑波大学) ○呑海 沙織 (筑波大学)
- 11:40~12:00 **総括討論**
-

Ⅱ-1部会 16-607

学生と社会

司会： 島 一則 (広島大学)

- 13:00~13:20 昭和女子大学社会人メンタープログラム参加学生の感想の質的分析 2
○小森 亜紀子 (昭和女子大学)
- 13:20~13:40 IR 的大学毕业生・企業調査の分析
—卒業生や企業は東京大学に何を求めるか?—
○船守 美穂 (東京大学)
- 13:40~14:00 1990年代以降の新規採用市場における構造変化
○中島 弘至 (東京大学大学院)
- 14:00~14:40 専門学校における就職支援と職業への移行
○大島 真夫 (東京理科大学) ○濱中 義隆 (国立教育政策研究所)
- 14:40~15:00 総括討論
-

Ⅱ-2部会 16-608

教育実践の研究

司会： 川島 啓二 (九州大学)

- 13:00~13:20 プ「リ」ゼンテーションによる思索力の向上
—プレゼンテーションにおける暗記力向上との対比において—
○河野 惟隆 (元筑波大学)
- 13:20~13:40 コミュニケーション・カードを用いた授業改善 (2)
○劉 卿美 (長崎大学) 橋本 健夫 (関西国際大学)
- 13:40~14:00 評価指標の策定に基づく writing 教育カリキュラム・モデルの開発
○伊藤 奈賀子 (鹿児島大学)
- 14:00~14:20 段階的 PBL 実践研究
—振り返りに着目して—
○小柳津 久美子 (愛知東邦大学)
- 14:20~14:40 多様な共通教育科目における学生の主体的学びの推進
—ワーク・シャトルカード・プレゼンテーションで学生の相互刺激を促し、主体的な学びをファシリテート—
○清水 亮 (神戸学院大学)
- 14:40~15:00 総括討論
-

教育の質保証

司会： 深堀 聡子（国立教育政策研究所）

- 13:00~13:20 **イギリス中等教育における学外試験の成立過程**
—大学による試験機能拡張の視点から—
○中村 勝美（広島女学院大学）
- 13:20~13:40 **ブラジルの高等教育における質保証と学修成果試験**
○塚原 修一（関西国際大学）
山口 アンナ真美（非会員：北海道教育大学）
- 13:40~14:30 **学生参画による大学の質保証**
—フィンランド、アメリカ、台湾、日本の比較—
○田中 正弘（筑波大学） ○森 利枝（大学評価・学位授与機構）
○楊 武勲（国立暨南国際大学） ○渡邊 あや（津田塾大学）
山田 礼子（同志社大学） 杉本 和弘（東北大学） 武 寛子（愛知教育大学）
- 14:30~15:00 **総括討論**

大学職員

司会： 松塚 ゆかり（一橋大学）

- 13:00~13:20 **IR 担当者に必要な潜在的素養に関する質的分析**
—大学職員の事例における検討—
○松宮 慎治（神戸学院大学）
- 13:20~13:40 **大学経営人材の養成と高等教育研究**
—イギリスの大学院課程—
○高野 篤子（大正大学）
- 13:40~14:00 **大学職員の成長プロセスとSD**
○加藤 毅（筑波大学）
- 14:00~14:40 **評価・IR 担当者に必要な知識・スキルに関する考察**
—人材育成プログラムの開発・充実に向けて—
○寫田 敏行（茨城大学） ○小湊 卓夫（九州大学） 浅野 茂（山形大学）
大野 賢一（鳥取大学） 佐藤 仁（非会員：福岡大学） 末次 剛健志（非会員：佐賀大学）
関 隆宏（新潟大学） 土橋 慶章（神戸大学） 藤井 都百（非会員：名古屋大学）
藤原 宏司（非会員：Bemidji State University and Northwest Technical College, MnSCU）
藤原 将人（立命館大学）
- 14:40~15:00 **総括討論**

Ⅱ-5部会 16-705

大学院と研究

司会：丸山 文裕（広島大学）

- 13:00~13:20 現代社会における社会的倫理観を養う教育プログラムの開発と実践
○山崎 慎一（桜美林大学）
- 13:20~13:40 “わけあり論文”の投稿リスクと研究者養成に関する考察
○北垣 郁雄
- 13:40~14:00 金沢工業大学における学部・大学院を通じた研究倫理教育の取り組みについて
○西村 秀雄（金沢工業大学）
- 14:00~14:20 大学教員養成機関としての大学院教育に関する課題
—教育学系大学院博士課程後期在籍の学生によるライフストーリー・インタビューをもとに—
○佐藤 万知（広島大学）
- 14:20~14:40 米国の研究大学における学問領域別教育研究経費の推移に関する分析
—1980年代から1990年代のカリフォルニア大学バークレー校を事例に—
○福井 文威（政策研究大学院大学） 戸村 理（政策研究大学院大学）
上山 隆大（非会員：政策研究大学院大学）
- 14:40~15:00 総括討論

Ⅱ-6部会 16-706

奨学金と大学財政

司会：川島 太津夫（大阪大学）

- 13:00~13:20 戦前期育英奨学事業の再検証
○白川 優治（千葉大学）
- 13:20~13:40 大学の入学料政策および現況分析
—韓国の入学料廃止に関する論争を中心に—
○宋 善英（韓国大学教育協議会）
- 13:40~14:00 中国における貧困層出身大学生の学習成果に及ぼす奨学金の効果
○鮑 威（北京大学）
- 14:00~14:20 米国州立大学におけるファンディングを通じた政治的圧力
○水田 健輔（東北公益文科大学）
- 14:20~14:40 日本型所得連動奨学金返済プランの設計
○小林 雅之（東京大学）
- 14:40~15:00 総括討論

Ⅱ-7部会 16-708

大学の活性化方策

司会： 吉本 圭一 (九州大学)

- 13:00~13:20 **グローバル人材育成における大学教育の効果**
○劉 文君 (東洋大学)
- 13:20~13:40 **会津大学の早期入学(飛び入学) について**
○山内 和昭 (会津大学)
- 13:40~14:00 **卒業生組織会則等にみる「校友」の資格と大学支援への役割**
○大川 一毅 (岩手大学) 畠田 敏行 (茨城大学)
- 14:00~14:20 **中小規模私立大学の変容**
一定員充足状況等の時系列分析を通じて—
○有澤 尚志 (文部科学省)
- 14:20~14:40 **高齢化社会における高等教育とマクロ労働生産性**
—都道府県パネル・データによる接近—
○橋本 圭司 (追手門学院大学)
- 14:40~15:00 **総括討論**
-

Ⅲ-1部会 16-607

留学と人材育成

司会： 秦 由美子 (広島大学)

- 10:00~10:20 **学生が博士課程を始めた動機と彼らの学業満足度の関わり**
—個人志向統計的アプローチによるフィンランドの現地学生と留学生の分類とその比較—
○櫻井 勇介 (University of Helsinki)
Vekkaila Jenna (非会員：University of Helsinki)
Pyhalto Kirsi (非会員：University of Helsinki, University of Oulu)
- 10:20~10:40 **中国人の海外留学の新動向**
—量・年齢・国別分布の変化—
○王 傑 (日本学術振興会 (東京大学))
- 10:40~11:00 **韓国における頭脳獲得・還流政策**
—移民の歴史と留学生政策との関係性から—
○佐藤 由利子 (東京工業大学)
- 11:00~11:40 **留学がもたらす長期的インパクトに関する国際比較調査**
11:00~11:20 —グローバル人材育成において留学が果たす役割とは—
○芦沢 真五 (東洋大学) ○太田 浩 (一橋大学)
- 11:40~12:00 **総括討論**
11:20~12:00

Ⅲ-2部会 16-608

学士課程教育

司会： 杉谷 祐美子 (青山学院大学)

- 10:00~10:20 **ジェネリック・スキル概念の背景と育成モデルの検討**
○久保田 祐歌 (徳島大学)
- 10:20~10:40 **教養系学部における教養教育の特性**
—授業科目名称の分析—
○栗原 郁太 (玉川大学)
- 10:40~11:00 **教養教育の共通化に伴う受講学生の意識の変化に関する研究**
—学生アンケート分析による共通教育カリキュラム改革の功罪—
○小川 勤 (山口大学)
- 11:00~11:20 **学士力測定の試み**
—新入生学習調査 HATO 版より—
○相原 総一郎 (愛知教育大学)
- 11:20~11:40 **学士課程教育改革の成果指標の検討**
11:00~11:20 —学生の修得感と学業成績の相関分析—
○串本 剛 (東北大学)
- 11:40~12:00 **総括討論**
11:20~12:00

Ⅲ-3部会 16-701

大学評価

司会： 前田 早苗（千葉大学）

- 10:00~10:20 **内部質保証システムの構築**
—大学基準協会「内部質保証ハンドブック」を通じて—
○江原 昭博（関西学院大学）
- 10:20~10:40 **戦後「適格認定」の展開と大学**
—大学基準協会「会員資格審査」実施をめぐる大学の活動の過程—
○藤原 将人（立命館大学）
- 10:40~11:00 **京都三大学教養教育研究・推進機構における大学間連携特有の質保証と評価観点**
—設置形態を超えた教養教育共同化の取組を事例として—
○児玉 英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）
- 11:00~11:20 **日本の高等教育機関における国際的透過性のある枠組みの現状**
○堀田 泰司（広島大学） 村澤 昌崇（広島大学）
三上 亮（非会員：広島大学）
- 11:20~11:40 **日本の大学国際化評価の課題と展望**
—高等教育機関への意識調査より—
○野田 文香（大学評価・学位授与機構） 金 性希（大学評価・学位授与機構）
太田 浩（一橋大学） 渡部 由紀（非会員：一橋大学）
- 11:40~12:00 **総括討論**

Ⅲ-4部会 16-702

大学教授職

司会： 杉本 和弘（東北大学）

- 10:00~10:20 **教育と研究の両立という大学教授職の理念に疑問を呈している教員とは**
—ボーダーフリー大学に着目して—
○葛城 浩一（香川大学）
- 10:20~10:40 **教員から見た社会科学系大学院教育の現状(2)**
○二宮 祐（日本工業大学）
- 10:40~11:30 **変貌する世界の大学教授職(2)**
—キャリアと教育・研究活動の専門分野別の特徴を中心として—
○有本 章（くらしき作陽大学） ○大膳 司（広島大学） ○黄 福涛（広島大学）
○木本 尚美（県立広島大学） 米澤 彰純（名古屋大学） 藤村 正司（広島大学）
島 一則（広島大学） 福留 東土（東京大学）
- 11:30~12:00 **総括討論**

Ⅲ-5 部会 16-705

諸外国の高等教育政策

司会： 南部 広孝（京都大学）

- 10:00~10:20 中国における高等教育の新たな動き
—大学の「転型」—
○李 尚波（桜美林大学）
- 10:20~10:40 戦後フランスの高等教育計画と新大学創設
○大前 敦巳（上越教育大学）
- 10:40~11:00 フランスにおける大学連合体の設置
—大学・高等教育機関共同体（communaute d'universites et etablissements: COMUE）を巡って—
○大場 淳（広島大学）
- 11:00~11:20 高等教育システムの多様化政策
—ドイツの事例検討にもとづく比較的考察—
○吉川 裕美子（大学評価・学位授与機構）
- 11:20~12:00 総括討論

Ⅲ-6 部会 16-706

大学とガバナンス

司会： 羽田 貴史（東北大学）

- 10:00~10:20 大学を設置する学校法人の評議員会
—寄附行為の分析から見えるもの—
○小林 武夫（(学)産業能率大学）
- 10:20~10:40 大学の意思決定支援を目的とした指標の策定に関する検討
○大野 賢一（鳥取大学）
藤原 宏司（非会員：Bemidji State University and Northwest Technical College, MnSCU）
畠田 敏行（茨城大学） 浅野 茂（山形大学）
関 隆宏（新潟大学） 小湊 卓夫（九州大学）
- 10:40~11:00 学校法人（私立大学）のガバナンス研究
—学長のリーダーシップが大学運営および経営に与える影響—
○宮嶋 恒二（京都学園大学） 山崎 その（京都外国語大学）
伊多波 良雄（非会員：同志社大学）
- 11:00~11:20 投資活動からみた国立大学法人の経営行動に関する分析
—キャッシュ・フロー計算書とインタビュー調査からの検討—
○戸村 理（政策研究大学院大学） 福井 文威（政策研究大学院大学）
上山 隆大（非会員：政策研究大学院大学）
- 11:20~12:00 総括討論

学生参画

司会： 大塚 雄作 (大学入試センター)

- 10:00~10:20 **日本の大学における組織開発(OD)の担い手に関する基礎的研究**
○林 透 (山口大学) 深野 政之 (大阪府立大学)
山崎 慎一 (桜美林大学) 河島 広幸 (非会員：山口大学)
- 10:20~10:40 **大学教育改革の先導的事例に対する肯定的探求**
○西村 君平 (弘前大学) 呉 書雅 (広島大学)
- 10:40~11:20 **FD活動への学生参加の実践から考える、学生の力を活かした教育の質保証**
○安野 舞子 (横浜国立大学) ○曾根 健吾 (横浜国立大学)
- 11:20~12:00 **総括討論**
-

3号館401教室

高等教育政策の変容

<趣旨>

高等教育政策をテーマに掲げた課題研究の2年目は、「高等教育政策の変容」と題して実施する。昨年は「高等教育研究と政策」と題し、①政策という視点からの高等教育研究のレビューと、②実際の政策形成過程という2点に着目し、政策に資するという視点からの高等教育研究の在り方と、政策形成メカニズムを踏まえた高等教育研究の課題を探った。今年は、進行しつつある個別政策を取り上げ、変容する高等教育政策と大学の関係について、相互参照的に捉えることを目的とする。

具体的には、個々の政策の文脈と変容の特徴を踏まえつつ、それらに通底する高等教育政策の特徴を抽出し、政策を生むこととなった背景・要因や、大学側の反応、政策が大学の行動や価値観にもたらしたも等のについて検証し、高等教育研究として踏み込む必要のある課題やアプローチを議論する。政策を取り巻く背景や影響は様々ではないものの、以下の3点を取り上げ検討する。

第1は、ガバナンス改革の動向である。大学がその本質を踏み外すことなく機動的に機能するには、教育・研究の実践主体である学部や教員の行動が重要となるが、学校教育法の改正へと連なる近年のガバナンス改革の動向やその議論の過程での教授会に対する認識や齟齬を踏まえ、政府と大学、大学と教育・研究実践主体の間の相互関係をめぐるメカニズムや課題を明らかにする。

第2は、高等教育財政である。財政緊縮の下で市場化パラダイムが導入されてきたが、市場化が機能するためのマクロな経済文脈等を踏まえつつ、デフレ下の高等教育財政を総括した後、市場化が機能する条件の提示と、私学の多さという点では既に市場化が進んでいるともいえる我が国の高等教育システムにおいて、今後市場化が機能する条件とそこで生じる課題について論じる。

第3は、高大接続政策つまり入試改革である。少子化による大学経営問題と学力低下問題が同時進行する中で、今回の高大接続答申に連なる2000年以降の高大接続政策の展開と変容を、政府・行政サイド、高校・大学サイドの答申に関与した、あるいは関与しなかった各アクターの状況や、テスト理論の動向も踏まえつつ俯瞰し、高大接続をめぐる問題の核心は何処にあるのかを考える。

最後に、これら一連の政策形成に関わってきた行政サイドの視点と経験に基づき、3つの報告に対するコメントをいただき、学会として必要な研究内容や方向性と、その可能性あるいは困難性を、フロアの出席者の方と一緒に議論する。

<報告者>

1. ガバナンスをめぐる制度と運用

小入羽 秀敬 (広島大学)

2. 高等教育財政の変容

阿曾沼 明裕 (名古屋大学)

3. 大学入試政策

荒井 克弘 (大学入試センター)

<コメンテーター>

合田 哲雄 (文部科学省)

<司会>

小方 直幸 (東京大学)

3号館402教室

日本の大学院教育を考える(2)

—英国・米国・中国との比較—

<趣旨>

昨年度の課題研究では、1990年代以降の大学院拡張政策のもとで、日本の大学院、とくに社会科学系のそれは、進路先としての魅力を喪失してきていることが明らかになった。今年度は、それを受けて日本よりも早い時期から大学院を拡張したアメリカやイギリス、また、日本より遅れたものの急激なスピードでもって大学院を拡張している中国を対象にし、大学院の拡充のされ方、設立後の大学院の教育内容や大学院修了者の進路に関与する中心的なアクターに関して検討し、日本との比較を行うことを目的とする。

たとえば、日本の法科大学院は大学院拡充の失敗を象徴しているが、イギリスやアメリカでは、日本と同様に優秀な学生のリクルートや修了者の就職に関して課題を抱えている。しかしながら、それぞれに課題を克服しつつ法科大学院が維持されている。アメリカでは、プロフェッショナル・スクールはおおむねその地位を確立しているものの、それ以外の修士課程—とりわけ人文科学・社会科学系—の高等教育システムにおける位置づけや機能の曖昧さを如何に克服するかが課題となっている。中国は、博士課程に続く3年制の学術修士と、2年制の専門職修士が制度化されているが、近年の大学院進学熱の高まりを、政府が主導する専門職修士の拡大によって吸収しようとしている。

各社会において大学院が抱える課題に対して、誰がどのように取り組むことで克服しようとしているか、その状況を比較検討することで、日本社会における大学院の今後の在り方について考察する。

<報告者>

1. 日本の法科大学院における就職問題—主体に着目した英米との比較

田中 正弘 (筑波大学)

2. アメリカの修士課程における専門職教育—日本との比較の立場から—

福留 東土 (東京大学)

3. 誰が大学院に進学するのか—拡張政策のなかにおける中国の大学院進学構造—

李 敏 (信州大学)

<コメンテーター>

日本での大学院の作られ方—1991年の大学院倍増計画での経験をもとに—

潮木 守一 (名古屋大学名誉教授)

<司会>

濱中 淳子 (大学入試センター)

14号館201教室

公開シンポジウム

高等教育のグローバル化の批判的検討

本シンポジウムの目的は、高等教育の世界で進行しているグローバリゼーションを批判的に検討することにある。学問の普遍性に立脚する高等教育は、教育・研究にかかわる諸活動が越境して行われることを常としてきたが、1990年代頃からは経済のグローバリゼーションに誘引されて、越境する諸活動の頻度があがるとともに、活動を支える理念にも変化が生じている。

本シンポジウムでは、それらを次の3点から検討する。第1は、現在生じている問題状況をマッピングし、何をどのように考えたらよいかの指針を示すことにある。第2は、日本のグローバル化政策を欧米のそれと比較して、問題状況を顕在化する、第3は、アジア諸国(途上国)におけるグローバル化の状況、その先進国との異動を検討し、高等教育におけるグローバル化の立ち現れ方の多様性、そこにおける問題の布置連関を明らかにし、日本において現在進行しているグローバル化のもつ問題性を考察する。

<報告者>

1. 高等教育のグローバル化とその課題

塚原 修一 (関西国際大学)

2. グローバル化政策の比較検討

太田 浩 (一橋大学)

3. アジア諸国の高等教育のグローバル化の諸相

杉村 美紀 (上智大学)

<コメンテーター>

黒田 一雄 (早稲田大学)

<司会>

長島 啓記 (早稲田大学)

14号館201教室

日本高等教育学会主催 IR ワークショップ

日本型 IR の多様性をどう見るか

<趣旨>

高等教育の質保証を推進する方策志向を背景として、既に GPA 制度、CAP 制の導入、単位の実質化等の方策がすでに多くの大学で実施されているが、そうした方策を十分に機能させ、質保証を推進するためには、IR と呼ばれる機能の開発やそうした部門の設置が求められつつある。教育情報の公表に伴い、データを一元化し、今後稼働する「大学ポートレート」用にデータを加工することも IR 部門の新たな仕事となる可能性も高い。さらには、大学のガバナンスの整備が求められるなかで、ガバナンスの支援ツールとしての IR という見方も浮上しつつある。

IR は、米国の高等教育機関で 1960 年代に誕生したといわれている。教育、経営、財務情報を含む大学内部の様々なデータの入手や分析と管理、戦略計画の策定、アクレディテーション機関への報告書や自己評価書の作成を主な仕事として、IR 部門は、米国の多くの高等教育機関に常設されている。こうした活動から、組織運営に関する意思決定の支援部門というニュアンスが強い一方で、教育改善のためのデータを集積、分析し、教育改善のツールとしての学生調査の開発にもかかわっている。その意味で、学内の教育の質保証にも深くかかわっているのが IR 部門といえる。

現在の日本における IR は政策動向にあわせて変化し、またその多様な意味から、何が IR かと統一することは極めて困難であり、大学の規模、大学の特質、設置形態によってもその目的とするところは様々である。あるいは、大学という枠組みを超えて、連携するようなケースも考えられる。

今回のワークショップでは、「日本型 IR の多様性をどう見るか」というテーマのもと、オーガナイザーの趣旨説明を含めて、複数の大学や連携型であるコンソーシアムを事例に「当該大学やコンソーシアムにおける IR の特徴と問題」を提示してもらい、フロアの参加者とともに議論することを目的とした。IR は教職員の両方が関わるといことが予想されることから、教職共同が求められる部門あるいは機能でもある。多くの教員と職員の両方に是非参加していただき、本音で語り合う機会が提供できれば幸いである。

<オーガナイザー>

金子 元久(筑波大学) 山田 礼子(同志社大学)

<報告者>

1. 大規模私立大学の事例—早稲田大学大学総合研究センターにおける取組と課題—
沖 清豪(早稲田大学)
2. 地方国立大学の事例—マネジメントの高度化に向けた佐賀大学の IR 実践—
西郡 大(佐賀大学)
3. IR コンソーシアムの事例
細川 敏幸(北海道大学)

日本高等教育学会第 18 回大会プログラム

発行日：2015 年 5 月 25 日

発行者：日本高等教育学会第 18 回大会実行委員会

委員長 吉田 文（早稲田大学）
沖 清豪（早稲田大学）
長島 啓記（早稲田大学）
大坪 恭子（早稲田大学）
中山 勝博（早稲田大学）
高橋 知裕（早稲田大学）
山手 寛人（早稲田大学）
本庄 秀明（早稲田大学）
長山 道代（早稲田大学）
河野 志穂（立教大学）
前田 崇（北里大学）
御手洗明佳（千葉大学）
山岸 直司（早稲田大学）
姉川 恭子（早稲田大学）
邵 姜魏（早稲田大学）
松本 暢平（早稲田大学）
堀谷 有史（早稲田大学大学院）
木村 康彦（早稲田大学大学院）
沈 雨香（早稲田大学大学院）
樋田有一郎（早稲田大学大学院）
安藤 汐美（早稲田大学大学院）
韓 冀娜（早稲田大学大学院）
反橋 一憲（早稲田大学大学院）
布目 有紀（早稲田大学大学院）
柗澤 利也（早稲田大学大学院）
遠藤 健（早稲田大学大学院）
相原 美香（早稲田大学大学院）
喬 麗萍（早稲田大学大学院）
金 怡甜（早稲田大学大学院）
横山 淳平（早稲田大学大学院）

MEMO

世界的変動に直面する「大学」の役割と課題を論じる初めてのシリーズ

シリーズ 大大学

全7巻

編集委員
広田照幸
吉田文
小林傳司
上山隆大
濱中淳子
白川優治

大きな経済的・社会的変動のなか、知識生産の拠点かつ教育の機関として、大学はいま何をなすべきなのか。現状分析や技術的な改善策にとどまらず、多様な角度から多彩な論者が、あるべき大学像を提示する。
〈内容案内連号〉



- 1 グローバリゼーション、社会変動と大学 — 何が求められているのか
- 2 大衆化する大学 — 学生の多様化をどうみるか
- 3 大学とコスト — 誰がどう支えるのか
- 4 研究する大学 — 何のための知識か
- 5 教育する大学 — 何が求められているのか
- 6 組織としての大学 — 役割や機能をどうみるか
- 7 対話の向こうの大学 — 四六判本体各2400円

教育は何をなすべきか

広田照幸 — 能力・職業・市民 —

雇用や民主主義の空洞化が進行する現在、教育は未来に向けて何をしていくべきか。教育における能力観、職業教育、市民形成をめぐる考察。
四六判本体2400円

専門家として教師を育てる

佐藤学 — 教師教育改革のグランドデザイン —

真の「教師の資質向上」のために何が必要なのか。従来の養成制度の何が問題だったのか。世界の動向も含めつつ明快に提示する。
四六判本体1800円

新刊

岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
<http://www.iwanami.co.jp/>

[定価は表示価格+税]

IDE大学協会 ご案内

IDE大学協会は、高等教育の充実・発展に貢献することを目的とする大学関係者の団体です。1954年創設以来、日本の大学・高等教育が直面する重要問題について、必要な情報を共有し議論を深めるフォーラムとして、大きな役割を果たしてきました。現在、日本唯一の大学・高等教育総合誌「IDE現代の高等教育」の刊行、会員のための研究会・セミナーの開催などを実施しております。また、全国6地区に置かれている支部において、それぞれ独自の活動を行っています。

IDE大学協会の活動は、自主的にご参加いただいている会員の皆様により支えられています。日本の大学が大きな転機を迎えている今、高等教育研究者の皆様には、是非当会にご入会いただき、大学人の共通の広場としての当会をご支援・ご活用下さるようお願いいたします。

ご入会手続き、お問い合わせは下記ウェブサイトをご利用下さい。

会員には、年会費（維持会員1万円、学生会員7千円、機関会員3万5千円）を前納していただけます。それ以外の義務はございません。

会員の特典

- ・「IDE現代の高等教育」(年10回発行)を、維持会員・学生会員に毎号1部、機関会員には毎号4部をお届けします。増冊の場合はご相談ください。
- ・IDE出版物（実費頒価のものを除く）を会員割引で購入できます。
- ・IDEの開催するフォーラムなど諸会合（会誌上に案内掲載）に参加することができます。

IDE大学協会 <http://www.ide-web.net/>

〒105-0004 東京都港区新橋4-25-4 TEL(03)3431-6822 FAX(03)6809-1311

社会で求められる力(ジェネリックスキル)を測定するなら



— PROGが選ばれる理由 —

1. 測定領域のユニークさ
ジェネリックスキルを知識を活用して問題解決する力「リテラシー」と経験を積むことで身についた行動特性「コンピテンシー」の両面から測定します。
2. 客観性の高さ
明確な外的基準に基づいて、能力を客観的に測定します。
3. 多様な比較対象
多くのサンプルの中から、貴学に合った比較集団を選ぶことが可能です。
4. 豊富なデータ分析実績
2012年4月以来、280以上の大学で導入、累計受験者18万人以上(2015年3月現在)の豊富なデータを基に、貴学における様々なIRデータとの関連を、専門スタッフが分析します。
5. 能力育成支援の施策提案
ジェネリックスキルの測定のみならず、育成プログラム、大学教職員のための研修を支援します。

詳細は http://www.riasec.co.jp/prog_hp/ または http://www.52school.co.jp/support/generic_skill
【ブログお問合せ先】

株式会社 リアセックお客様センター
TEL: 0120-769-396 (受付時間 平日10:00~18:00)

河合塾グループ
株式会社KEIアドバンス教育事業戦略推進部
TEL: 03-5276-2734 (受付時間 平日9:00~18:00)

J. バランタイン、F. ハマック 著 牧野暢男・天童睦子 監訳

教育社会学

—現代教育のシステム分析—

全米でロングセラー！
教育社会学の「古典」を本邦初訳！

アメリカの教育社会学者 J. バランタインと F. ハマックによるロングセラー『教育社会学』待望の翻訳。教育社会学入門からその応用まで、今日の教育現実や教育と社会の関係を体系的に深く理解し、教育のあり方や教育問題について考えるための必読書。教育・学校・人間形成について、これまでに蓄積された社会学的知見やデータをふまえて詳述されている。6版まで版を重ねる好著を、平易な訳文で本邦初訳。



本体価格 6,500円 + 税

大学院改革の社会学

工学系の研究機能を検証する

濱中淳子 著

第4回日本教育社会学会
奨励賞(著書の部)受賞!

本書は、政府による大学院改革政策がどのような意味をもっているかについて実証的に検討。大学院生の意識や行動を分析し、その結果を踏まえながら、日本の大学院が経験している変化の局面を理解し、政策の意味や問題点、あるべき政策のあり方について考えた。



本体価格 4,286円 + 税

入試改革の社会学

中澤渉 著

本書は、公立高校における入試、特に推薦入学制度の拡大普及という現象を切り口に、日本の教育システムとその改善について考察。著者が独自に集めた文書資料のほか、質問紙調査、教育統計に関するマクロデータを利用して、入試改革にかかわる現状と問題を実証的に解明。

第36回
サントリー学芸賞を
受賞した
中澤渉氏の著作



本体価格 6,857円 + 税

東洋館出版社

がんばる先生を
応援します!

〒113-0021 東京都文京区本駒込5丁目16番7号
TEL: 03-3823-9206 FAX: 03-3823-9208